

心理学方法論 I (01EE001)

(Methodologies on Psychology I)

授業形態：講義

授業時間：1学期 火曜日 第2・3時限

教室：人間B301

単位数：2単位

履修年次：1年

担当教員：櫻井 茂男

研究室：教員により異なる

オフィスアワー：教員により異なる

教育目標との関連：「②心理学的方法論を駆使して問題を実証的に分析する能力の養成」に関連

授業の到達目標：心理的測定から解析に至る心理学の方法論（心理学的測定・調査・実験・観察・相互作用分析など）を集中的に学び、社会・人間事象を解析しうる十分な技能の修得をはかる。

授業概要：主に心理学の基礎的方法論を取り上げ検討する。

評価方法：出席とレポートによる総合評価。単位取得の最低条件として、開講されたすべての授業時間数（休講となった時間数は除く）の60%以上への出席が必須。

教科書：特に使用しない。

参考図書：そのつど指示をする。

授業外における学習の方法：関連する研究論文を講読すること。

受講生に望むこと：研究のアイデアを豊かにすること。

授業計画（各週毎授業計画）

- ① 4月17日…櫻井茂男：オリエンテーション、心理尺度の構成について
- ② 4月24日…櫻井茂男：幼児や児童を対象とした調査について
- ③ 5月 8日…佐藤有耕：青年心理学研究の方法論①青年心理学的な研究とは何か
- ④ 5月15日…佐藤有耕：青年心理学研究の方法論②青年心理学の研究の具体例
- ⑤ 5月22日…湯川進太郎：実験計画法① 概要とポイントの解説
- ⑥ 5月23日（水） 修士論文第1次指導会
- ⑦ 5月29日…湯川進太郎：実験計画法② 具体的な研究例を用いて
- ⑧ 6月 5日…茂呂雄二：言語分析の手法（定量的分析：アイディアユニット、文の複雑さ、文間の接続の分類など）
- ⑨ 6月12日…茂呂雄二：談話分析の手法（定性的な分析：GTA、内容分析、相互行為分析、言説分析など）
- ⑩ 6月19日…綾部早穂：様々なニューロイメージング手法の解説と研究論文の眺め方

*各回の授業は2時限。

心理学方法論Ⅱ (01EE002)

(Methodologies on PsychologyⅡ)

授業形態：講義

授業時間：2学期 火曜日 第2・3時限

教室：人間B301

単位数：2単位

履修年次：1年

担当教員：櫻井 茂男

研究室：教員により異なる

オフィスアワー：教員により異なる

教育目標との関連：「②心理学的方法論を駆使して問題を実証的に分析する能力の養成」に関連

授業の到達目標：心理的測定から解析に至る心理学の方法論（心理学的測定・調査・実験・観察・相互作用分析など）を集中的に学び、社会・人間事象を解析しうる十分な技能の修得をはかる。

授業概要：主に心理学の基礎的方法論を取り上げ検討する。

評価方法：出席とレポートによる総合評価。単位取得の最低条件として、開講されたすべての授業時間数（休講となった時間数は除く）の60%以上への出席が必須。

教科書：特に使用しない。

参考図書：そのつど指示をする。

授業外における学習の方法：関連する研究論文を講読すること。

受講生に望むこと：研究のアイデアを豊かにすること。

授業計画（各週毎授業計画）

- ① 9月 4日…綾部早穂：錯視図形の作成を通じて、コンピュータを用いた刺激呈示スキルを習得する。
- ② 9月18日…松井 豊：因子分析 … 因子分析の基本的手順を説明し、因子の命名に関する実習を行う。
- ③ 10月 2日…外山美樹：パネル調査(1)（パネル調査（縦断研究）を取りあげ、調査研究において因果関係を検討する方法について紹介する。）
- ④ 10月16日…外山美樹：パネル調査(2)（パネル調査（縦断研究）を取りあげ、調査研究において因果関係を検討する方法について紹介する。）
- ⑤ 10月23日…服部 環：構造方程式モデリング（フリーソフトRを用いて構造方程式モデリングについて学ぶ。）
- ⑥ 10月24日(水) … 修士論文第2次指導会
- ⑦ 10月 30日…服部 環：検定力分析（フリーソフトRを用いて統計的検定力について学ぶ。）
- ⑧ 11月 6日…原田悦子：人—人工物間相互作用分析における言語プロトコル研究の方法
- ⑨ 11月13日…原田悦子：高齢者を対象とした研究の意義と方法
- ⑩ 11月20日…松井 豊：数量化Ⅲ類 … 数量化Ⅲ類（双対尺度法を含む）の基本的な手順を説明し、調査における利用方法を詳細に解説する。

*各回の授業は2時限。

心理学方法論Ⅲ (01EE003)

(Methodologies on PsychologyⅢ)

授業形態：講義

授業時間：3学期 火曜日 第2・3時限

教室：人間A321

単位数：2単位

履修年次：1年

担当教員：櫻井 茂男

研究室：教員により異なる

オフィスアワー：教員により異なる

教育目標との関連：「②心理学的方法論を駆使して問題を実証的に分析する能力の養成」に関連

授業の到達目標：心理臨床のさまざまな方法論について学び自分の研究計画に生かせること

授業概要：主に心理臨床の方法論を取り上げ検討する。

評価方法：出席とレポートによる総合評価。単位取得の最低条件として、開講されたすべての授業時間数（休講となった時間数は除く）の60%以上への出席が必須。

教科書：特に使用しない。

参考図書：そのつど指示をする。

授業外における学習の方法：関連する研究発表物にあたること。

受講生に望むこと：研究のアイデアを豊かにすること。

授業計画（各週毎授業計画）

- ① 12月 4日…望月 聡：神経心理学的検査，認知リハビリテーション
- ② 12月11日…望月 聡：神経心理学的検査，認知リハビリテーション
- ③ 12月25日…濱口佳和：事例研究法
- ④ 1月 8日…濱口佳和：多様な単一事例実験計画法
- ⑤ 1月15日…濱口佳和：心理臨床における実践的仮説生成研究法—臨床心理学へのMGTAの適用—
- ⑥ 1月22日…青木佐奈枝：見立てと支援，心理査定 of 臨床活用
- ⑦ 1月23日(水)…修士論文最終口述試験
- ⑧ 1月29日…青木佐奈枝：見立てと支援，心理査定 of 臨床活用
- ⑨ 2月12日…杉江 征：事例研究，病態心理学，ケースを読むこと

*各回の授業は2時限。

心理学特別研究 (01EE004)

(Basic Research in Psychology)

授業形態：演習と実習・実験

担当教員：櫻井茂男 他
心理専攻全教員

教室：各教員の研究室

授業時間：1～3学期 不定期

単位数：4単位

履修年次：2年

研究室：教員により異なる

オフィスアワー：教員により異なる

教育目標との関連：教育目標①「広く深い専門的知識を基に，心理学の基礎から応用まで幅広く活躍できる人材の養成」ならびに②「心理学的方法論を駆使して問題を実証的に分析する能力の養成」に関連

授業の到達目標：

各自の修士論文の研究テーマについて幅広く文献をレビューし，その上で未解決の問題を取り上げ，綿密な研究計画を立案し，習得した心理学的方法論を使用し的確なデータの収集と分析を行い，実証的な研究としてまとめる能力を身につけること

授業概要：各教員がそれぞれの指導学生に個別に示す

評価方法：同上

教科書：特に使用しない。

参考図書：そのつど指示をする。

授業外における学習の方法：関連する研究論文を講読すること。学会・研究会などで専門家に意見を聴く

受講生に望むこと：学術雑誌に掲載されるレベルの研究を目指すこと

授業計画（各週毎授業計画）

詳細は各指導教員がそれぞれの院生に個別に示す。

感覚知覚心理学特講 (01EE101)

(Lecture on Sensation and Perception Psychology)

授業形態：講義

担当教員：綾部 早穂

教室：人間 B335

授業時間：2学期 木曜日 第4・5時限

研究室：人間系学系棟 B309 TEL853-4721

単位数：2単位

オフィスアワー：火曜日 15:30～17:30

履修年次：1～2年

教育目標との関連：教育目標①「広く深い専門的知識を基に、心理学の基礎から応用まで幅広く活躍できる人材の養成」に関連

授業の到達目標：情報処理論的アプローチの理解

授業概要：情報処理論的アプローチに基づき、感覚、選択、記憶、解釈、反応に関する基本的情報処理過程を探る。今年度は「視覚研究における知覚学習」に関して、特に associative learning, memory consolidation, neural network, neural rehabilitation, neuronal plasticity, sensory adaptation, learning specificity の観点から最新のデータと解釈、知見を学び、討論を行うことにより人間の情報処理の働きの理解を深める。

評価方法：授業への出席と授業への関与の度合いを総合的に判断する。

教科書：

参考図書：

授業外における学習の方法：参考図書や文献の講読

受講生に望むこと：自主的な学習，幅広い知識の獲得

授業計画（各週毎授業計画）

本年度は、D. Sagi のレビュー論文 “Perceptual learning in vision research” (2011) *Vision Research*, 51, p. 1522-1566 を読みすすめながら、どのような研究手法で、何が明らかにされたのかを、オリジナルの研究論文にさかのぼって参照しながら確認して理解していく。

- 1 オリエンテーション
- 2～8 研究論文のレポート及び討論
- 9・10 まとめ

認知心理学特講 (01EE004)

(Lecture on Cognitive Psychology)

授業形態：講義

担当教員：原田悦子

教室：人間 A321

授業時間：3 学期 火曜日 第 4・5 時限

研究室：人間系学系棟 A342 TEL853-4717

単位数：2 単位

オフィスアワー：火曜日 11:00～17:30

履修年次：1・2 年

教育目標との関連：教育目標①「広く深い専門的知識を基に、心理学の基礎から応用まで幅広く活躍できる人材の養成」に関連

授業の到達目標：認知心理学研究の問題設定/現状/方法論/限界の理解・習得を目標とする。

授業概要：認知心理学研究の文献をレビューしながら、認知心理学における考え方の枠組・前提、問題のとらえ方の特徴と詳細化、研究方法とその分析、得られた結果からの展開の仕方について検討する。

評価方法：出席を前提とし、発表(50%)ならびに討論への参加(50%)を総合的に評価する。

教科書：P. Rabbitt (ed.) Cognitive Ageing, Psychology of Ageing (Critical Concepts in Psychology, Volume II, 2009, Psychology Press. (予定)

参考図書：随時指定する。

授業外における学習の方法：教材に関する関係資料を主体的に探し、理解してこること。

受講生に望むこと：先行研究を critical に読むことは研究活動の基本です。そうした読みと議論を通して、認知心理学を体得していきましょう。自分の研究領域との関係性を積極的に考え、議論に石を投げ込んでください。

授業計画 (各週毎授業計画)

2 冊のテキストについて、参加者の興味と全体のバランスを考えながら、いくつかの章を選択し、参加者全員で読み進めていく。各章の担当者は、論文自体の梗概をまとめつつ、議論を誘導すべく、各種資料を提供すること。出席者も必ず、その論文を読んできた上で、批判的に読むという形での議論に参加すること。

1. オリエンテーション：授業の方法の説明、ならびに各人の興味に合わせた分担決定
2. ～9. テキスト各章の報告と議論(1 回に 1 章をおおよその目安として)
10. 認知心理学とその他の学問領域の違いと類似点について議論を行う。

言語心理学特講 (01EE107)

(Lecture on Psychology of Language)

授業形態：講義

担当教員：茂呂雄二

教室：人間 B334

授業時間：2学期 木曜日 第2・3時限

研究室：人間系学系棟 A346 853-4615

単位数：2単位

オフィスアワー：木曜日昼休み

履修年次：1・2年

教育目標との関連：教育目標①「広く深い専門的知識を基に、心理学の基礎から応用まで幅広く活躍できる人材の養成」に関連

授業の到達目標：言語心理学の現状を理解する。

授業概要：言語の心理にかかわる研究を、とくに学習科学の動向とあわせて紹介する。学習科学では、人の学びにおける、概念的な変化を明らかにするために、学習の成否をはかる上でも、また学習者への効果的な介入のあり方を評価するためにも、言語データとくに談話・会話データに依拠することが多い。学習科学の成立過程と動向を整理した上で、実際の研究を吟味しながら、談話・会話分析的手法を紹介する。

評価方法：出席およびレポート

教科書：指定しない

参考図書：茂呂雄二『人はなぜ書くのか』東京大学出版会

茂呂雄二（編）『対話と知』新曜社

茂呂雄二（編）『実践のエスノグラフィー』金子書房

授業外における学習の方法：課題図書の講読

受講生に望むこと：幅広い考え方の吸収

授業計画（各週毎授業計画）

- 1 導入：学習をめぐる最近
- 2 学習科学①：認知科学，コンピュータサイエンスにおける学習研究
- 3 学習科学②：状況的学習論
- 4 学習科学③：ワークプレイス研究
- 5 談話の科学①：会話の分析
- 6 談話の科学②：語りの内容分析
- 7 談話の科学③：言説の分析
- 8 学習過程の分析：談話および言説の内容分析の実際
- 9 学習過程への介入：理科における介入的研究の実際
- 10 学習過程の組織化：コミュニティーの学習過程分析の実際

教育心理学特講 (01EE201)

(Lecture on Educational Psychology)

授業形態：講義(演習形態を含む)

担当教員：外山美樹

授業時間：1学期 火曜日 第4・5時限

研究室：人間系学系棟 A345 TEL853-4614

教室：人間 A321

単位数：2単位

オフィスアワー：1時限

履修年次：1・2年

教育目標との関連：教育目標①「広く深い専門的知識を基に、心理学の基礎から応用まで幅広く活躍できる人材の養成」に関連

授業の到達目標：教育心理学的研究の実践方法を習得させることを目標とする。特に、様々な研究方法や分析方法を獲得することを主要な目的とする。

授業概要：教育心理学分野の最近の重要なトピックをレビューし、教育心理学研究に関する理解を深める。具体的には、教育心理学のテーマに関する論文(英文を含む)や専門書を担当受講生が発表し、そのテーマについて受講者全員で討論する。今年度は、「モチベーション」についての書物である

○ “Handbook of Motivation Science” (Shah, J.Y., & Gardner, W.L.(編), 2007)

○ “Current Directions in Motivation and Emotion” (Sheldon, K.M. (編), 2009)

のどちらかを受講生が分担して読んでいく。ならびに受講者の興味のある研究領域のレビューを行う。

評価方法：出席状況, レポート(発表内容), 討論参加の程度によって総合的に判断する。

資料：随時配布する。

参考図書：授業中に紹介する。

授業外における学習の方法：常日頃、様々な文献に目を通してください。

受講生に望むこと：積極的な授業参加を望みます。

授業計画 (各週毎授業計画)

- 1 オリエンテーション：授業で使用する書物の決定ならびに各人の興味に合わせた分担決定
- 2 ~ 9 発表および討論(1回につき1章を目安とする)
- 10 まとめ

教育測定学特講 (01EE204)

(Seminar in Educational Measurement)

授業形態：講義

授業時間：1学期 木曜日 第4・5時限

教室：人間 A202

単位数：2単位

履修年次：1・2年

担当教員：服部 環

研究室：人間系学系棟 B302

オフィスアワー：木曜日第2時限

教育目標との関連：教育目標②「心理学的方法論を駆使して問題を実証的に分析する能力の養成」に関連

授業概要：心理学の研究には基本的な心理統計技法の習得はもちろんのこと、多変量データ解析や計量心理学的技法の習得が必要となる。本講義では心理統計学をベースにして多変量データ解析や計量心理学的技法を学ぶ。技法の習得・利用にはコンピュータソフトウェアが必要であるから、適宜、ソフトウェアを紹介する。授業では、まず心理学の研究に利用されている統計解析技法を書籍・研究論文を通して概観し、続いて主要な心理統計技法に焦点を絞る予定である。受講者には文献講読・報告を課す。

評価方法：出席およびレポートによる。

資料：随時配布する。

参考図書：

- (1)足立浩平 (2006). 多変量データ解析法—心理・教育・社会系のための入門— ナカニシヤ出版
- (2)Everitt, B.著 石田基広・石田和枝・掛井秀一訳 (2007). RとS-PLUSによる多変量解析 シュプリンガー・ジャパン
- (3)Fox, J. (2006). Structural Equation Modeling With the sem Package in R. Structural Equation Modeling, 13, 465-486.
- (4)Kreft, I. & de Leeuw, J.著 小野寺孝義・菱村 豊・村山 航・岩田 昇・長谷川孝治訳 (2006). 基礎から学ぶマルチレベルモデル—入り組んだ文脈から新たな理論を創出するための統計手法

授業計画 (各週毎授業計画)

1. 導入
2. 内外の書籍・研究論文の講読-1
3. 内外の書籍・研究論文の講読-2
4. 内外の書籍・研究論文の講読-3
5. 心理統計技法の学習-1
6. ソフトウェアの利用-1
7. 心理統計技法の学習-2
8. ソフトウェアの利用-2
9. 心理統計技法の学習-3
10. ソフトウェアの利用-3

児童心理学特講 (01EE207)

(Lecture on Child Psychology)

授業形態：講義(演習形態を含む)

担当教員：櫻井茂男

授業時間：2学期 火曜日 第4・5時限

研究室：人間系学系棟 A412 TEL 853-4718

教室：人間 A321

単位数：2単位

オフィスアワー：水曜日 10:00-11:30

履修年次：1・2年

教育目標との関連：教育目標①「広く深い専門的知識を基に、心理学の基礎から応用まで幅広く活躍できる人材の養成」に関連

授業の到達目標：児童期の「動機づけ」について理解する。

授業概要：児童心理学についての新しい研究成果を紹介したり、レポートしてもらったりして、児童期の心理について理解を深める。今年度はおもに「動機づけ」についての書物 (Handbook of Motivation at School, Kathryn R. Wentzel & Allan Wigfield(Ed.), 2009) の Section II以降を読み、討論する。

評価方法：レポート、討論参加の程度、出席状況によって行う。

教科書：授業中に配布する。

参考図書：授業中に紹介する。

授業外における学習の方法：できるだけ教科書の英文に目を通すこと。

受講生に望むこと：心理学の英文を読みレポートをしてもらうため、英語が得意であること。

授業計画 (各週毎授業計画)

1・2 オリエンテーション

3～18 動機づけに関する上記の本をレポートしてもらい、討論する。

19・20 まとめ

青年心理学特講 (01EE210)

(Lecture on Adolescent Psychology)

授業形態：講義

授業時間：3学期 木曜日 第4・5時限

教室：人間 A202

単位数：2単位

履修年次：1・2年

担当教員：佐藤有耕

研究室：人間系学系棟 A344 TEL853-4695

オフィスアワー：火曜日 11:40~12:00

<E-mail:yuhkohst@human.tsukuba.ac.jp>

教育目標との関連：教育目標①「広く深い専門的知識を基に、心理学の基礎から応用まで幅広く活躍できる人材の養成」に関連

授業の到達目標：授業で取り上げる内容を通して、青年心理学研究の現状と課題を理解し、青年の心理を理解する多様な観点を身につけること。例えば、青年を対象としてとらえ、外から青年を理解しようとする立場と、青年の側に立って青年を理解しようとする立場(落合, 2002)の違いを知ること。青年性・世代性・個別性という問題設定の観点(西平, 1988)を理解すること。一つの現象を対自的側面・対他的側面・時間的展望の側面を含む全体としてとらえること(落合, 1995)。

授業概要：青年心理学に関する重要な文献を教材として、青年心理学に関する知見を深める。文献には、青年心理学の古典、体系的なテキスト、学位論文などの重厚な研究、レビュー論文、最新の学会誌論文、隣接する学問領域の文献などを含める。学類の講義とは違い、少人数で実施し、発表や討論などを活発に行う学生参加型の授業とする予定である。

評価方法：授業に参加して、討議や発表や質疑応答など、受講生としての責任を果たした場合に単位の認定を行う。テストは行わない。

教科書：未定

参考図書：①西平直喜・久世敏雄(編) 『青年心理学ハンドブック』 東京:福村出版, 1988

②久世敏雄・齋藤耕二(監修) 『青年心理学事典』 東京:福村出版, 2000

③加藤隆勝・高木秀明(編) 『青年心理学概論』 東京:誠信書房, 1997

授業外における学習の方法：授業に関連する内容について、受講生各自が積極的に学習を深めておくことが求められる。

受講生に望むこと：専門の如何にかかわらず、この授業を通して青年心理学の知見を学び、各自の研究活動に役立てること。

授業計画 (各週毎授業計画)

0. オリエンテーション

1. 青年心理学の概要

2. わが国の青年心理学の動向

3. 青年心理学の重要文献の検討～

具体的な内容に関しては、受講生との顔合わせの後に、年度ごとに検討して確定していく

社会心理学特講 (01EE301)

(Lecture on Social Psychology)

授業形態：講義

授業時間：1学期 木曜日 第2・3時限

教室：人間 A321

単位数：2単位

履修年次：1・2年

担当教員：松井豊

研究室：人間系学系棟 A312 TEL853-6779

オフィスアワー：木曜日 11:35-12:25

教育目標との関連：教育目標②「心理学的方法論を駆使して問題を実証的に分析する能力の養成」に関連

授業の到達目標：社会心理学や非験系の心理学に関する研究職を目指す大学院生のために，論文作成に必要なスキルを高めることを目的とする。

授業概要：社会心理学の下記にあげる研究技法を，講義と実習を通して説明する。

評価方法：出席と課題提出。

教科書：指定しない。

参考図書：講義中に紹介する。

授業外における学習の方法：課題を完成させるために，演習時間外に必要な作業を行う。

受講生に望むこと：適切な講義環境を保つために，受講制限を行う。制限条件は初回講義開始時に説明する。初回欠席者は受講できない。初回講義時に，研究業績の一覧（卒論・修論は要約，学会発表や学会誌はコピー）を持参すること。なお，修論生も別扱いにしない。

授業計画

初回に受講生の業績内容を検討し，下記のテーマの中から必要と考えられるものを順に行う。

- a. 文献の収集法・整理法
図書館・書店情報・インターネットを用いた情報検索・2次情報源・PsycINFO
文献のメタ分析
- b. 要因図を用いた問題の整理
- c. 質問票の作成テクニック
- d. データ処理の技術 …多変量解析の使い方
統計のウソ
多変量解析の基礎・クラスター分析・主成分分析
因子分析
数量化Ⅲ類
重回帰分析・パス解析
- e. フィールド調査の実施上の注意
- f. 学会発表におけるプレゼンテーションの技術
学会発表の予行練習
- g. 各学会誌の文体
学会誌の文体を分析する
- h. 「心理学」教師としてのテクニック
心理学の模擬講義を行う
- i. パワーポイントを使う
パワーポイントを用いてプレゼンをする
- j. 文献批判の視点

臨床社会心理学特講 (01EE307)
(Lecture on Clinical Social Psychology)

授業形態：講義

授業時間：2学期 金曜日 第2・3時限

教室：人間 A321

単位数：2単位

履修年次：1・2年

担当教員：湯川進太郎

研究室：人間系研究棟 A307

オフィスアワー：水曜日昼休み

e-mail：s-yukawa@human.tsukuba.ac.jp

教育目標との関連：教育目標①「広く深い専門的知識を基に、心理学の基礎から応用まで幅広く活躍できる人材の養成」に関連

授業の到達目標：学术论文を通して、臨床社会心理学的なアプローチの仕方を身につける。また、心理学論文の読み方・書き方として、問題の展開、目的・仮説の設定、実験・調査の方法、データの分析方法や結果の記述、考察の仕方も併せて学ぶ。

授業概要：受講する学生が興味・関心のある学术论文（英文）を紹介し、受講生全員で討論する。

評価方法：授業への参加および発表、討論への参加姿勢に基づいて、総合的に評価する。

教科書・参考書：なし

授業外における学習方法：心理学以外の書籍を多読・乱読する。

受講生に望むこと：討論への積極的な参加を望む。

授業計画

1. イントロダクション
2. 最新の学术论文をもとにディスカッション
3. 最新の学术论文をもとにディスカッション
4. 最新の学术论文をもとにディスカッション
5. 最新の学术论文をもとにディスカッション
6. 最新の学术论文をもとにディスカッション
7. 最新の学术论文をもとにディスカッション
8. 最新の学术论文をもとにディスカッション
9. 最新の学术论文をもとにディスカッション
10. 受講生各自の修士論文のテーマに関するアドバイス

臨床心理学特講 (01EE401)

(Lecture on Clinical Psychology)

授業形態：講義

授業時間：1・2学期 木曜日 第2・3時限

教室：人間 A202

単位数：4単位

履修年次：1年

担当教員：濱口佳和

研究室：D棟706

オフィスアワー：木曜日 15時～17時

教育目標との関連：教育目標③「現実の心理的問題に対応できる力を持った実践家となる scientist-practitioner (科学者-臨床家)としての能力の養成」に関連

授業の到達目標：心理臨床を行っていくために必要な、臨床心理学の基礎知識を習得する。

授業概要：臨床心理学の諸基礎理論、心理アセスメントと介入の実際などを概説するとともに、心理臨床家の社会的役割、倫理等についても解説する。

評価方法：授業への出席、討論への参加、レポート等で総合的に評価する。

教科書：1回目の授業にて提示

参考図書：授業中に適宜提示

授業外における学習の方法：心理相談室やこども相談室の活動への参加で、臨床経験を豊かにすること。

受講生に望むこと：積極的に質問すること。

授業計画 (各週毎授業計画) 1学期分

(1学期10回分。1回2時間配当。)

1. 臨床心理学の発展と現状
2. 臨床心理士の役割・業務・倫理・研鑽
3. インテークとインテークカンファレンス
4. 事例報告と事例研究
5. 精神分析療法1
6. 精神分析療法2
7. 来談者中心療法1
8. 来談者中心療法2
9. 行動療法1
10. 行動療法2

(2学期10回分。1回2時間配当)

1. 遊戯療法の理論
2. 遊戯療法の実際 (事例1)
3. 遊戯療法の実際 (事例2, 事例3)
4. 箱庭療法の理論
5. 箱庭療法の実際 (事例1・事例2)
6. 攻撃的問題行動の理解と臨床心理学的支援
7. 不安障害の理解と臨床心理学的支援
8. 抑うつ理解と臨床心理学的支援
9. 問題を持つ子どもの保護者の理解と臨床心理学的支援
10. まとめと総合討論

まず(財)日本臨床心理士認定協会が定める臨床心理士の業務、倫理および研鑽などについて十分理解を深めるとともに、インテークカンファレンスなど相談室活動に参加する上で必要な基礎的知識を学ぶ。その上で、ビデオなどの視聴覚教材を利用して各種心理療法の理論と実際について理解を深める。2学期は児童・青年の心理療法に焦点を当てて紹介する。受講生には積極的に討議に参加することが望まれる。

臨床心理面接特講 (01EE402)

(Lecture on Psychotherapy)

授業形態：講義・実習

授業時間：2学期 火曜日 第4・5時限、
3学期 木曜日 第2・3時限

教室：人間 A202

単位数：4単位

履修年次：1年

担当教員：○杉江征・青木佐奈枝

研究室：人間系学系棟B328
D棟704

オフィスアワー：教員により異なる
(メールによる問い合わせ)

教育目標との関連：教育目標③「現実の心理的問題に対応できる力を持った実践家となる scientist-practitioner (科学者-臨床家)としての能力の養成」に関連

授業の到達目標：心理臨床における面接の基本技術と心構えを身につける。

授業概要：この授業では、心理臨床における面接法の基本的な知識とスキルを習得することを目的としている。授業前半は、初回面接に関する文献についての各章を、参加者で分担し発表してもらう。各発表では、内容をよりよく説明するための資料も適宜準備してもらう。そして初回面接についての理解を深めていってもらう予定である。一方、授業後半は、ミニ・カウンセリングを行い、実際の面接方法について体験的な学習を行っていく予定である。

評価方法：出席状況と課題への取り組み、授業への主体的なかわり方をもとに評価を行う。

教科書：James Morrison (著)，“The First Interview 3版” (2007)。

参考図書：土居 健郎(著)、『方法としての面接—臨床家のために』(1992)。など適宜授業中に紹介していく予定。

授業外における学習の方法：心理臨床に関する書籍や論文、事例報告など文献的な学習を行うとともに、日々の生活の中での自分自身の諸体験を通して、自己に対する理解を深めていって欲しい。

受講生に望むこと：心理臨床を学ぶ上で大切なのは、会話を通した自己と他者との交流である。それゆえ、授業では、一方的な講義という形態をとらずに、学生と教員あるいは学生間の相互の対話を重視した形式で行う。授業の中で取り上げられる話題についても、各自がそれぞれの体験の中で吟味し、その話題と自己の在り方を問うことによって心理臨床の基本的な考え方の理解を深めていって欲しい。

授業計画

第1回目：レポーターの割り振り、「話を聴くこと」の概説を行う。「話を聴くこと」の概説の中では、話を聴くことについての「訓練の意味」などについても概説を行う。

第2回目以降

各回の授業前半は“The First Interview 3版”の各章について、担当者が発表を行う。

授業後半は、ミニ・カウンセリングの検討を行う。ミニ・カウンセリングは、各回、話し手と聴き手の役割をとった模擬面接場面の録音テープ（あるいはビデオ）と逐語録を作成し、それをもとに面接における話の聴き方を検討する。受講者全員が「話し手」と「聴き手」の役割を体験し、個々の受講者の実情に合わせた面接法の基礎的なトレーニングを実施していく予定である。

臨床心理基礎実習 (01EE403)

(Practice in Clinical Psychology: Basic)

授業形態：臨床実習

授業時間：通年 木曜日 第4・5時限

教室：D117; 人間 B301

単位数：3単位

履修年次：1年

担当教員：杉江征・濱口佳和・青木佐奈枝

中込四郎・寺島瞳・田附あえか

研究室：人間系学系棟B 328ほか

オフィスアワー：教員により異なる

(メールによる問い合わせ)

教育目標との関連：教育目標③「現実の心理的問題に対応できる力を持った実践家となる scientist-practitioner (科学者-臨床家)としての能力の養成」に関連

授業の到達目標：インテークの実際を学び、インテークに必要な最小限の情報収集力の修得や適切なアセスメントを行うなど、インテーカーとして活動できるようになること。

授業概要：心理相談室やこども相談室でのインテークとインテークカンファレンスへの参加。

評価方法：相談室活動への参加とインテークカンファレンスでの発表、討論への参加等から総合的に評価する。

教科書：特になし。

参考図書：適宜提示する。

授業外における学習の方法：上述したように、相談室活動への参加が必須であり、その点では上述の授業時間外にも行われることに注意。

受講生に望むこと：積極的に参加し、質問すること。

授業計画 (各週毎授業計画)

心理的問題を抱えた学外者に有料で相談に応じている心理相談室とこども相談室を用いて実習を行う。教員のインテークに同席したり、インテークを観察し、インテークカンファレンスにも出席してケースをアセスメントの力を養う。1年次の必修科目であり、インテークカンファレンスへの出席が必須である。

臨床心理実習 (01EE404)

(Practice in Clinical Psychology)

授業形態：臨床実習

教室：人間 B301

授業時間：通年 木曜日 第5時限

単位数：3単位

履修年次：2年

担当教員：杉江征・青木佐奈枝・中込四郎・
寺島瞳・田附あえか

研究室：人間系学系棟B 328 ほか

オフィスアワー：教員により異なる
(メールによる問い合わせ)

教育目標との関連：教育目標③「現実の心理的問題に対応できる力を持った実践家となる scientist-practitioner (科学者-臨床家)としての能力の養成」に関連

授業の到達目標：インテークを一人で実施できるとともに、スーパーバイズの下でケースを担当できるようになること。

授業概要：心理相談室および子ども相談室の活動に参加し、インテークカンファレンスへの参加。

評価方法：相談室活動への参加とインテークカンファレンスでの発表、討論への参加等から総合的に評価する。

教科書：特になし

参考図書：適宜提示する。

授業外における学習の方法：上述したように、相談室活動への参加が必須であり、その点では上述の授業時間外にも行われることに注意。

受講生に望むこと：積極的に参加し、質問すること。

授業計画 (各週毎授業計画)

心理的問題を抱えた学外者に有料で相談に応じている心理相談室を用いて実習を行う。実習ではケースを直接担当し、カウンセリングを行うのに必要な技能の習得に努める。したがって、担当ケースによっては、正規の授業時間外にも行われる。なお、心理相談室は夏期及び春期休暇中にも開かれているので、休暇中も授業が行われる。2年次の必修科目であり、インテークカンファレンスへの出席が必須である。

発達臨床心理実習 (01EE405)

(Practice in Developmental Clinical Psychology)

授業形態：実習

授業時間：1～3学期 木曜日 第4時限

教室：D117

単位数：3単位

履修年次：2年

担当教員：濱口佳和・庄司一子

研究室：D棟706, D棟315

オフィスアワー：濱口（木曜15時～17時00分）

庄司（木曜15時30分～17時）

教育目標との関連：③「現実の心理的問題に対応できる力を持った実践家となる scientist-practitioner（科学者-臨床家）としての能力の養成」に関連

授業の到達目標：

筑波大学子ども相談室での心理臨床活動および相談室のカンファレンスでの討論、グループ・スーパービジョンなどを通じて、幼児期から思春期頃までの心理・行動上の問題・軽度発達障害を持つ子どもとその保護者・学校教員などへの臨床心理学的支援の実践力を高める。臨床心理査定演習で学んだ諸検査のスキルを、相談活動の中で一層高めること、子どもへの支援法として遊戯療法や行動療法などの実践経験をつむこと、保護者面接の陪席・実践により、非指示的カウンセリングと子どもの問題についてのコンサルテーションの実践力を獲得することが目標とされる。

授業概要：

財団法人臨床心理士資格認定協会が定める指定校の必修科目であり、受講は心理臨床コースの大学院生に限定される。受講生は筑波大学子ども相談室の相談研修員登録をし、相談室の定める研修相談員の種別に応じて子ども相談室での実践に、博士後期課程の大学院生、担当教員、非常勤相談員とともにチームを組んで従事することが求められる。その活動の一環として、相談室のカンファレンス、各事例におけるミーティング、担当教員によるグループ・スーパービジョンへの参加・発表・討論が求められる。

評価方法：相談室カンファレンス・グループ・スーパービジョンへの参加状況、担当事例での実践活動状況をふまえ、総合的に評価する。

教科書：特に指定はしない。

参考図書：杉原 一昭 『事例でみる発達と臨床—カウンセリングの現場から』 北大路書房

弘中正美 『遊戯療法と子どもの心的世界』 金剛出版

内山喜久雄 『行動療法（講座サイコセラピー）』 日本文化科学社

M. ハーセン・V.B. ヴァン・ハッセル（編）（深沢 道子他訳）『臨床面接のすすめ方—初心者のための13章』 日本評論社

授業外における学習の方法：

担当する事例の問題行動などについて関連文献をよく調べることで、各自が行った各回の子どもの心理療法や親面接の振り返りをよく行い、記録し、適宜まとめることが求められる。

受講生に望むこと：カンファレンスやグループ・スーパービジョン、事例ごとのミーティングに積極的に参加すること、心理臨床の実践者としての倫理を十分に自覚して実践活動を行うこと、各自が行った心理臨床実践について毎回よく振り返りを行い、長所短所を自覚し実践力の向上を目指してほしい。クライアントやその持ち物に対して損害を与えた場合の備えとして、相談室で進める保険に加入することを求める。

授業計画（各週毎授業計画）

(1) 授業としての活動：1～3学期：毎週木曜日4時限に行われるカンファレンスへの出席

(2) 相談活動：

原則として月曜日～金曜日の子ども相談室開室時間帯に、担当教員、学外相談員、他の相談研修員とチームを組んで相談活動を行う。相談時間は個々の事例によって決められる。各種検査面接、子どもへの心理療法の実践、保護者面接や受理面接への陪席、保護者面接の実践、などの役割を研修員の種別に応じて担当する。相談活動の各回における事前・事後のミーティングと担当ケースのグループ・スーパービジョンに参加する（グループ・スーパービジョンの開催日程は後日発表する）。また、相談活動の運営方法を学ぶため、相談室の実務活動に参加する。

臨床心理査定演習Ⅰ (01EE406)

(Seminar in Psychological Assessment I)

授業形態：演習

授業時間：1学期 水曜日 第5・6時限

教室：後日指定する

単位数：2単位

履修年次：1年

担当教員：濱口佳和

研究室：D棟706

オフィスアワー：木15時～17時

教育目標との関連：

「②心理学的方法論を駆使して問題を実証的に分析する能力の養成」、③「現実の心理的問題に対応できる力を持った実践家となる scientist-practitioner (科学者-臨床家)としての能力の養成」に関連

授業の到達目標：

心理臨床の実践でよく用いられる個別式知能検査や発達検査について、それぞれの検査の背景理論の理解を深めるとともに、演習を通じて、検査の実施・採点、個人の知能・発達水準の評価の仕方を身につける。

授業概要：

心理臨床コースの必修科目。財団法人日本臨床心理士資格認定協会により指定校の必修科目と定められており、受講は心理臨床コースの大学院1年生に限定される。各種検査の講義とDVDなどを用いた実演を行う。受講後、受講生はロールプレイまたは実地で各種検査を実施し、その結果をレポートにまとめることが求められる。各種個別式知能検査・発達検査、質問紙タイプの心理尺度などを取り上げる。

評価方法：講義への出席と提出されたレポートにより評価する。

教科書：特になし。各回において参考資料を印刷・配布する。

参考図書：上里一郎（監修）『心理アセスメントハンドブック』西村書店
氏原寛他（編）『心理臨床大事典』培風館

授業外における学習の方法：

各回の講義終了後、受講生は順番で検査器具とマニュアルの貸し出しを受けるが、この際、練習を十分に行い、検査の実施手順に習熟することが特に必要。

受講生に望むこと：

全ての講義に出席し、与えられたレポート課題を期日までに提出すること。また、検査器具の貸し借りはルールと期日を守ること。

授業計画

- 第1回 心理アセスメント概説
- 第2回 個別式知能検査① WAISⅢ 1
- 第3回 個別式知能検査① WAISⅢ 2
- 第4回 個別式知能検査① WAISⅢ 3
- 第5回 個別式知能検査② 田中・ビネーV 1
- 第6回 個別式知能検査② 田中・ビネーV 2
- 第7回 個別式知能検査② 田中・ビネーV 3
- 第8回 発達検査 1
- 第9回 発達検査 2
- 第10回 発達検査 3

初回は4月25日に行う

臨床心理査定演習Ⅱ (01EE407)

(Seminar in Psychological Assessment II)

授業形態：演習

授業時間：2学期 水曜日 第1・2時限

教室：人間 B301

単位数：2単位

年次：2年

担当教員：青木佐奈枝・望月聡

研究室：D棟704・D棟705

オフィスアワー：教員により異なる
(メールによる問い合わせ)

教育目標との関連：教育目標②「心理学的方法論を駆使して問題を実証的に分析する能力の養成」、③「現実の心理的問題に対応できる力を持った実践家となる scientist-practitioner (科学者-臨床家)としての能力の養成」に関連

授業の到達目標：

心理臨床の実践でよく用いられる心理検査の中、主として投影法と神経心理学的検査について、それぞれの検査の背景理論の理解を深めるとともに、演習を通じて、検査の実施・採点、解釈法を学ぶ。

授業概要：

心理臨床コースの必修科目。財団法人日本臨床心理士資格認定協会により指定校の必修科目と定められており、受講は心理臨床コースの大学院2年生に限定される。夏季・冬季の休業中にも実習を行う。受講後、受講生はロールプレイまたは実地で各種検査を実施し、その結果をレポートにまとめることが求められる。

評価方法：開催される講義への出席と提出されたレポートにより評価する。

教科書：特になし。各回において参考資料を印刷・配布する。

参考図書：上里一郎(監修)『心理アセスメントハンドブック』西村書店
氏原寛他(編)『心理臨床大事典』培風館

受講生に望むこと：

全ての講義に出席し、与えられたレポート課題を期日までに提出すること。また、検査器具の貸し借りはルールと期日を守ること。

授業計画(各週毎授業計画)

第1回：投影法検査の背景理論、主として描画法検査を学ぶ

第2回：PF スタディの講義と実習

第3回：神経心理学検査の講義と実習

健康心理学特講(01EE408)

(Lecture on Health Psychology)

授業形態：講義
授業時間：集中（※）
教室：未定
単位数：2単位
履修年次：1・2年

担当教員：小玉正博
研究室：人間系学系棟 B326

オフィスアワー：

教育目標との関連：教育目標①「広く深い専門的知識を基に、心理学の基礎から応用まで幅広く活躍できる人材の養成」および③「現実の心理的問題に対応できる力を持った実践家となる scientist-practitioner (科学者-臨床家)としての能力の養成」に関連する。

授業の到達目標：健康心理学のアプローチと最近の研究動向について理解する。

授業概要：健康心理学は、我々が病気行動、健康維持、健康増進などをどのように認知し、行動するか、また、それらに関連する心理社会的要因が心身の健康、精神的安寧を得る上でどのような役割を持っているかについて明らかにしようとする領域である。本講義では、心身健康問題をポジティブ心理学の知見やウェルビーイング研究などと関連づけながら、関連文献の精読とディスカッションを通して健康心理学領域のトピックと研究動向について学ぶ。

評価方法：出席およびレポート

教科書：受講者が決定次第、資料を配付する

参考図書：

C. R. Snyder & S. J. Lopez (Eds.) 2007 *Positive Psychology*. SAGE

S.Taylor (Ed.) 2008 *Health Psychology 7th Edition*. McGraw Hill

J.L.Magyar-Moe 2009 *Therapist's Guide to Positive Psychological Interventions*. Academic Press.

授業外における学習の方法：課題文献の講読

受講生に望むこと：事前に配布される課題を精読した上で、関連文献或いは資料についても読み込み、内容紹介を行い、学習内容の深化をはかることを期待する。

授業計画（各週毎授業計画）

1. 健康心理学の目的と方法
2. 健康生成モデルと病理モデルについて
3. 健康心理学とポジティブ心理学：その1
4. 健康心理学とポジティブ心理学：その2
5. 健康とライフスタイル，パーソナリティ：その1
6. 健康とライフスタイル，パーソナリティ：その2
7. 感情と心身の健康：ネガティブ感情
8. 感情と心身の健康：ポジティブ感情
9. ウェルビーイング研究を巡る諸問題：その1
10. ウェルビーイング研究を巡る諸問題：その2

※ 受講希望者は資料配付の都合上、履修登録時に授業担当者にメールで問い合わせること。
メールアドレス：mkodama@human.tsukuba.ac.jp

発達臨床心理学特講 (01EE410)

(Lecture on Developmental Clinical Psychology)

授業形態：講義・演習

授業時間：1・2学期 火曜日 第6時限

教室：人間 B335

単位数：2単位

履修年次：1・2年

担当教員：濱口佳和

研究室：D棟706

オフィスアワー：木曜日 15時～17時

教育目標との関連：「①広く深い専門的知識を基に、心理学の基礎から応用まで幅広く活躍できる人材の養成」に関連

授業の到達目標：児童・青年の心や行動の諸問題についての基礎的研究および臨床心理学的介入研究の最新の知見を獲得すること。

授業概要：児童・青年の心や行動の諸問題について書かれた英文の専門書、欧文雑誌などを取り上げ、担当を決めて輪読する。今年度は児童・青年の精神疾患への臨床心理学的アプローチについての米国の定評ある専門書の輪読を行う。

評価方法：各回の出席、担当部分の発表、レポートなどを総合的に評価する。単位の取得には全授業回数の60%以上の出席が必須。

教科書：児童・青年の社会的不適応についての英語書籍・または英語論文を授業開始時に指定する。

参考図書：特に指定しない

授業外における学習の方法：発表の担当者は、割り当て部分を精読し、不明の事柄については関連文献に当たるなどして極力調べておくことなどして、その内容について理解を深めておくことが求められる。

受講生に望むこと：

積極的な授業参加を望みます。質問や意見など、どんどん述べ、活発な論議を望みます。また授業で取り上げられた内容で、興味がひかれた事柄については、各自で積極的に文献を調べ、学習を進めることを望みます。単に当該領域の最新の知見を得るだけでなく、欧米における児童臨床心理学研究の現在の水準の高さをしっかり認識し、今後各自が研究を進めていく上での示唆を得るようにしてほしい。

授業計画 (各週毎授業計画)

第1回 ガイダンス

第2回以降は 参加者で書籍の章あるいは論文の分担をきめ、各章1～2時間程度を使って発表・討議する。

老年心理学特講 (01EE411)

(Lecture on Psychogerontology)

授業形態：講義
授業時間：集中*
教室：未定
単位数：2単位
履修年次：1・2年

担当教員：大川一郎
研究室：東京キャンパス

オフィスアワー：

教育目標との関連：「①広く深い専門的知識を基に、心理学の基礎から応用まで幅広く活躍できる人材の養成」に関連

授業の到達目標：高齢者に対する心理臨床的なケアのあり方について、その考え方、方法論を理解する。

授業概要：人間の生涯的発達の中での老年期に焦点を当てる。「生まれてから死ぬまでの生涯発達の過程における中高年期の位置づけ」「その心理的な意味」「老いるとはどういうことなのか」「加齢に伴い、身体機能、知的機能はどう変化していくのか」「また、そのことが日常生活上にどのような変化をもたらすのか」「家族関係も含めて人間関係はどのように変化していくのか」などのテーマについて事例も含めて考えていきたい。

評価方法：毎回の出席及び、授業中の課題の報告、討論への参加の度合い等によって総合的に判断する。

教科書：「エピソードでつかむ老年心理学」ミネルヴァ書房 2011。

その他、授業の内容に応じたレジュメ、資料等を適宜配布する。

参考図書：授業時、適宜、紹介する。

授業外における学習の方法：新聞、雑誌、TV等で、高齢者にかかわる話題に敏感に反応し、読んだり見たりし、自分なりの考察を深めるように努めてほしい。また、課外実習として、高齢者体験を予定している。

受講生に望むこと：単に知識や情報の習得だけでなく、授業をきっかけに高齢者の視点から現象をとらえられるように考察を深めて欲しい。

授業計画（各週毎授業計画）

- 1週～2週 生涯発達の視点からみた老年期
- 3週～4週 老いるということ ―老年期の心理的な意―
- 5週～6週 身体機能のエイジング
- 7週～8週 知的機能のエイジング
- 9週～10週 高齢者に対する心理的理解と支援

※受講希望者は、授業担当者にメールで問い合わせること（実施時期、授業形態等）。

メールアドレス iot21005@human.tsukuba.ac.jp

学校心理学特講 (01EE412)

(Lecture on School Psychology)

授業形態：講義・演習

担当教員：石隈利紀

授業時間：1学期 水曜日 第1, 2時限

教室：文科系修士棟

研究室：人間系学系棟 A405

単位数：2単位

オフィスアワー：水曜日 13:30～14:30

履修年次：1・2年

教育目標との関連：教育目標①「広く深い専門的知識を基に、心理学の基礎から応用まで幅広く活躍できる人材の養成」および③「現実の心理的問題に対応できる力を持った実践家となる scientist-practitioner (科学者-臨床家)としての能力の養成」に関連

授業の到達目標：学校心理学の理論と心理教育的援助サービスの実践について理解する。

授業概要：心理教育的援助サービスの理論と実践の体系である学校心理学について学習する。とくに学校生活における子どもの困難についての理解と援助について焦点をあてる。

評価方法：出席，レポート，期末試験から総合的に評価する。

教科書：石隈利紀 『学校心理学—教師・スクールカウンセラー・保護者のチームによる心理教育的援助サービス』 誠信書房

参考図書：授業で紹介する。

授業外における学習の方法：課題図書 of 講読

受講生に望むこと：「学校」「学習」「援助」について考える。

授業計画 (各週毎授業計画)

- 1 なぜ学校心理学か、子どもが変わる・学校が変わる・社会が変わる
- 2 世界における学校心理学 (2) , 日本における学校心理学
- 3 心理教育的援助サービスと学校・学級を通した子どもの成長 I
- 4 心理教育的援助サービスと学校・学級を通した子どもの成長 II
- 5 心理教育的アセスメント I : 子ども, 環境, 折り合いのアセスメント
- 6 心理教育的アセスメント II : 心理検査の活用 (得意な認知スタイル・学力の特徴の把握)
＜特別講義＞寅さんとハマちゃんに学ぶ助け方・助けられ方の心理学
- 7 「カウンセリング」：直接的な援助サービス～授業, 特別活動, 生徒指導
- 8 コンサルテーションとパートナーシップ：間接的な援助サービス
- 9 チーム援助とコーディネーション
- 10 心理教育的援助サービスのシステム

キャリアカウンセリング特講 (01EE413)

(Lecture on Career Counseling)

授業形態：講義・演習・発表・討議

担当教員：岡田昌毅

授業時間：集中（※）

教室：未定

研究室：東京キャンパス

単位数：2単位

履修年次：1・2年次

オフィスアワー：金曜日 17:30 ～ 18:20

教育目標との関連：教育目標①「広く深い専門的知識を基に、心理学の基礎から応用まで幅広く活躍できる人材の養成」および③「現実の心理的問題に対応できる力を持った実践家となる scientist-practitioner (科学者-臨床家)としての能力の養成」に関連する。

授業の到達目標：キャリア・カウンセラーがクライアントを適切に支援していくには、クライアントの抱える問題・課題に対して多様な視点からアプローチすることが望まれる。キャリア関連の諸理論・アプローチを広く学ぶことで、その相互の関係性や相違を理解し、実践への応用の基盤を習得する。

授業概要：キャリア・カウンセリングの基礎である「キャリアの心理学」を概説し、その理論的背景であるキャリア関連の諸理論・アプローチを紹介する。さらに実際のキャリア・インタビューを通じて、諸理論・アプローチの現実への応用についてグループ毎に整理し、全体発表・討議を実施する。

評価方法：出席と課題レポート発表等を総合して評価する。

教科書：渡辺三枝子編著 2007 「新版キャリアの心理学」 ナカニシヤ出版

参考図書：その他 講義資料の配布、関連文献図書の紹介は授業内で適宜行う。

授業外における学習の方法：関連文献講読、プレゼンテーション資料作成等

受講生に望むこと：社会人大学院生との合同授業を実施します。授業を通じ実社会の実態に触れ、みなさんの研究を如何にして実社会に応用していくかについて、じっくりと考えてくれることを期待しています。

授業計画

- 第1回：オリエンテーション，キャリア関連諸理論・アプローチの概説
- 第2回：キャリア・インタビュー準備，キャリア・インタビュー（その1）
- 第3回：キャリア・インタビュー（その2）および整理
- 第4回：職業選択と適性
- 第5回：キャリア発達論
- 第6回：働く動機
- 第7回：組織内キャリア発達
- 第8回：社会的学習理論・意思決定論
- 第9回：トランジション論
- 第10回：総合討議

※受講希望者は授業担当者にメールで問い合わせること。

メールアドレス：okada@human.tsukuba.ac.jp

病態心理学特講 (01EE414)

(Lecture on Pathological Psychology)

授業形態：講義及び演習

授業時間：3学期 金曜日 第4・5時限

教室：人間 A 321

単位数：2単位

履修年次：1・2年

担当教員：望月聡

研究室：D棟 704

オフィスアワー：月曜日 11:30～12:30

教育目標との関連：「①広く深い専門的知識を基に、心理学の基礎から応用まで幅広く活躍できる人材の養成」に関連

授業の到達目標：心理学の一研究法としての病的アプローチの意義を理解し、学術論文を通して、病態心理学的なアプローチの仕方を身につける。

授業概要：病態心理学・認知行動病理学・神経心理学に関する最新の文献を取り上げて討論し、実証的な臨床心理学ならびに関連する心理学領域の研究方法について学び、理解を深める。受講する学生が興味・関心のある学術論文（英文）を紹介し、受講生全員で討論する。

評価方法：出席状況、レポートの提出及び討論への参加などを総合的に評価する。

教科書：特になし

参考図書：授業中に適宜提示する。

授業外における学習の方法：関係文献を広く読み、発表に備えること。

受講生に望むこと：討論への積極的な参加。「基礎と臨床の境界」を飛び越えましょう。

授業計画

病態心理学とは、「行動や意識、そしてコミュニケーションの障害を研究対象とする学問である」(Sillamy, 2003)と定義されるが、心理的障害の詳細な観察や分析を通して一般法則を見出そうとするアプローチである。このような病態心理学のパイオニアとして、運動性失語症を解明したBroca, P. P. の名前が挙げられることもあるが、通常はフランス心理学の祖と呼ばれているRibot, Th. に始まるとされている。病態心理学とは、病の心理学というよりも、病態理解を通して、一般心理を理解しようとするアプローチに他ならない(丹野義彦・小川俊樹・小谷津孝明編「臨床認知心理学」(2008))。

今年度は主として認知行動病理学的側面を扱う。*Behaviour Research and Therapy*, *Cognitive Therapy and Research*, *Behavior Therapy*, *Journal of Behavior Therapy and Experimental Psychiatry*, *Journal of Abnormal Psychology* などの学術誌に掲載された最新の学術論文のうち、とりわけ実験的方法論に基づく研究を主として題材とし、知識の習得と併せ研究方法論を学ぶ。

第1回 ガイダンス

第2回以降 発表・討論

アセスメント心理学特講 (01EE415)

(Lecture on Assessment Psychology)

授業形態：講義及び演習

授業時間：不定期

教室：未定

単位数：2単位

履修年次：1・2年

担当教員：青木佐奈枝

研究室：D棟706

オフィスアワー：

教育目標との関連：教育目標②「心理学的方法論を駆使して問題を実証的に分析する能力の養成」、③「現実の心理的問題に対応できる力を持った実践家となる scientist-practitioner (科学者-臨床家)としての能力の養成」に関連

授業の到達目標：心理臨床家の業務である「心理アセスメント」に関して理解するとともに、種々のアセスメント技法の習熟を目指す。

授業概要：心理支援の基礎である心理アセスメント法を概説し、関係文献や資料の講読、討論、及びアセスメント実習を通して、心理アセスメント法の理解を深める。

評価方法：出席と課題レポート発表等を総合して評価する。

教科書：授業内容に応じ、適宜、指定。

参考図書：授業内容に応じ、適宜、指定。

授業外における学習の方法：関係文献を読み、実習を行う。

受講生に望むこと：積極的参加を望む。

授業計画

第1回 ガイダンス

第2回 心理アセスメントとは

第3回 心理アセスメントの方法

第4回以降は 参加者で論文の分担をきめ、各章1～2時間程度を使って発表・討議する。及び実習。